

「を VN だ」構文の出現頻度について

佐藤 豊

【要 旨】

本論文においては、今まで先行研究においてほとんど取り上げられて来なかった日本語のコピュラ「だ」の軽動詞としての用法を取り上げ、それが動名詞 (Verbal Noun, VN) と複合述語を形成し、動詞格のついた項とともに生起する構文 (「を VN だ」構文) がインターネットにおいてどのぐらいの頻度で出現するかを、Google 検索により確認した。軽動詞「する」と結合した場合に、他動詞を派生させる動名詞、472 項目を選び出し、そのうちどの動名詞が実際に「を VN だ」構文として現れるか検証したものである。その結果、472 項目のうち 4 分の 1 を超える割合 (26.5%) の動名詞が「を VN だ」の構文として現れることが認められた。さらに、「を VN だ」構文に終助詞「か」が接続し疑問文を作ったと思われる「を VN か」構文に出現する動名詞を調べ、「を VN だ」構文か「を VN か」構文のどちらか一方、あるいは両方の構文に出現する動名詞を調べたところ、472 項目の 50% にのぼった。これは、先行研究で広く認められているところの「を VN 中」構文に動名詞が出現する割合 (55.7%) に近く、コピュラが軽動詞として動名詞と複合述語を形成する割合は決して希少なことはないことがわかった。また、「を VN だ」構文に現れる動名詞のタイプを調べたところ、境界動名詞、非境界動名詞、非動作主動名詞などの様々なものがあるということが認められた。

【キーワード】：だ 軽動詞 動名詞 する サ変動詞

1. はじめに

日本語においては、「する」という軽動詞 (light verb) が存在すると言われている (Grimshaw & Mester, 1988 ; 影山 1993 等)。軽動詞とは、本動詞 (重動詞 heavy verb) のような実質的な意味を持たない動詞であり、(1) にあるように動名詞 (Verbal Noun, VN) 「研究」のような実質的な事象を表す形式に接続し、動詞としての活用およびテンスを表すことを可能にする。動名詞と複合語化した場合、軽動詞は動名詞の項が格助詞「を」「に」のように動詞とともに生起する格 (動詞格) を持って現れることを可能にする。¹

(1) 太郎は、英文学を研究する。

動名詞 (Verbal Noun, Martin 1975) とは、品詞としては名詞²だが動詞のような意味を持ち、項を持つ語彙であり、軽動詞と複合語を形成する。多くは、漢字 2 字からなる漢語熟語 (例、「研究」「落下」) であるが、外来語 (例、「オープン」「スタート」) および和語 (例、「手入れ」) なども存在する。

この論文で焦点を当てるのは、(2) にあるように、日本語のコピュラ「だ」が接続し、

動名詞の項が動詞格として現れる構文についてである。

- (2) 日英共同で細胞代謝の酸化還元バランスを研究だ!
(sfccclip.net/news2010051403、2010年6月10日)
- (3) 日英共同で細胞代謝の酸化還元バランスを研究する。

(2) においては、軽動詞「する」と複合語化した(3)の場合と同様に、動名詞の項「細胞代謝の酸化還元バランス」は「を」格で現れている。本論文は、コピュラ「だ」にも、「する」と同じように軽動詞として動名詞に接続し、動名詞の項を動詞格として出現させることができることを実際のデータにあたり検証するところにある。なお、国語学においては「だ」は助動詞であるが、本論文においてはコピュラ動詞として見做し、様々に活用すると想定して議論を行う。

以上述べてきたように、動名詞(VN)に接続するコピュラ「だ」の用例を探すために、相澤(1993)において選定された「複合サ変動詞」1,080項目を用い、それらがどのぐらいの頻度において(2)のような構文で現れるかを、Googleを使って検索した。その際、(4)にあるような、すでに言語学あるいは日本語学において市民権を得たと思われる、動名詞に「中」というアスペクト辞がついた構文「VN中」の構文(Shibatani & Kageyama 1988; 杉岡 2009)の出現頻度と比較した。

- (4) おうちで簡単おいしいサラダレシピを研究中
(salada.s176.xrea.com、2010年6月10日)

ちなみに、(4)においても、動名詞「研究」がアスペクト辞「中」と接続することにより、その項は動詞格(「を」格)として現れている。

相澤(1993)により『日本語教育のための基本語彙調査』(国立国語研究所 1984)において選定された6880項目(6060語)(基本語六千)から1,080項目が選出されており、本論文においては、そのうち軽動詞「する」と接続して他動詞となる472項目の動名詞について、「をVNだ」の構文がどれほど存在するかを検証した。

2. 先行研究

先に示した(2)のようなデータは、先行研究においては、あまり扱われることはない。奥津(1978, p. 26)においては、(5)の「だ」は「する」の代動詞として扱われている。

- (5) 来週は部長と北海道へ出張だ。

Matsumoto(1996, p. 81)は、(5)と同じような例文について脚注において言及し、コピュラの「だ」が軽動詞として機能できるとしている。Iwasaki(1999, p. 121)は、Sells(1996)による(6)の例文に言及し、このような表現は、「一種の感嘆表現(a kind of an exclamatory

sentence)」であるとし、(7) のような例文は非文法的な文であるとしている。

- (6) Boku-tati wa asita kara Tookyoo e SYUPPATU da!
we top tomorrow from Tokyo to departure cop³
'Tomorrow, we leave for Tokyo.'
- (7) *John ga ainugo o KENKYUU da/datta.
John nom Ainu acc research COP.PRS/COP.PST
'John does/did research on Ainu.'

しかし、Sato (2008) は、(7) のような例文として、Google によって検索された実例を、(8) にあるように数多く示し、実際に動名詞が「を」格と共に起する構文を挙げている。(8) の英訳に関しては、原文通り初めの文にのみ付す。)

- (8) *kenpoo 9-zyoo o HAI SI da na* (constitution article-9 acc abolition cop sfp) '(we) are abolishing article 9 of the constitution.' (20) *ongaku riron o BEN KYOO da* ('music theory acc study cop'); *saa kyoo mo gyookai o KEN KYUU da!* ('now, today too industry acc study cop'); *mittu no kihon o REN SYUU da* ('three basic acc practice cop'); *sintin-taisya o SOKUSIN da!* ('metablism acc activation cop'); *saibu o SYUUSEI da* ('detail acc revision cop'); *FF o TYUUSI da* ('FF acc cancellation cop'); *OT34 o HAI TI da* ('OT34 acc arrangement COP'); *dekki o TYO OSEI da* ('deck acc adjustment cop'); *sosite densyoku o KYOOKA da* ('and electric ornament acc enrichment cop'); *fyueru-firutaa o KOOKAN da* ('fuel filter acc change cop'); *hoosohoo o KAI SEI da* ('broadcasting law acc revision cop')

また、Sato (2008) は、脚注 6 において、Google 検索の結果、コピュラ「だ」の様々な活用した形が現れることを指摘している：'NP-o HAI SI na no ('it's that ...'), HAI SI de wa naku ('it is not ...'), HAI SI de wa gozaimasen ('it is not ...'—in the polite style), HAI SI de ('being ...'), and HAI SI desita kke ('was it ...?')'。例文 (9) (10) は、Google 検索により見つめられた例文である。

- (9) Javascript を廃止では影響大きすぎるよなあ (爆)
(<http://forum.mozilla.gr.jp/?mode=al2&number=22081&page=10&rev=0&0&KLOG=139>,
2005 年 11 月 23 日、2010 年 10 月 31 日)
- (10) 次はココを攻撃だったのですが、祭りのエンブレムを掲げた某大手連合に遭遇。
(www.yotsuba.org/ro/log/0409.html, 2005 年 11 月 23 日、2010 年 10 月 31 日)

工藤 (2002, p.51) は、「一時的現象」で「運動」を表す名詞述語文として「出発だ」「完成だ」「入院だ」「開幕だ」を挙げている。

先行研究において、「VN だ」の議論は少なく、その存在が明確に認められているかどうか疑問ではあるが、(11) にあるような連体修飾の形式である「VN の」の構文は広く認め

られている。ただし、「の」がコピュラであるかに関しては、議論のあるところである。Shibatani & Kageyama (1988) は、初めて (11) のような構文が存在することを指摘したが、彼らは (11) の「の」をコピュラとは扱ってはいない。

(11) 警察が男を逮捕の際、事故が起こった。

これに対して、Iwasaki (1999) および Sato (2008) は、(11) における「の」は、コピュラの連体形であるとみなしている。(12) に示すように、動名詞以外の名詞にも「の」による同様な表現が存在するのであるから、(11) の「の」もコピュラと見るほうが自然であろうと思われる。

(12) 私がまだ高校三年生の折に、…。

3. 調査の手順

コピュラ「だ」と接続する動名詞を選ぶために相澤 (1993) が挙げている動名詞 1,080 項目を使うことにした。相澤 (1993) は、『日本語教育のための基本語彙調査』(国立国語研究所 1984) において選定された 6880 項目 (6060 語) (基本語六千) から、二字漢字、外来語、和語に「する」が接続した「複合サ変動詞」(一部複合サ変動詞相当と見なされた一字漢字のサ変動詞も含まれている) 1,080 項目を選出した (相澤 1993)。

広く認められている動名詞であり、「する」と接続した場合に他動詞になるものを対象とすべく、相澤 (1993) の扱った 1,080 項目の動名詞 (複合サ変動詞より「する」を取り除いたもの) のうち、以下のものを取り出した。

- (13) a. 6つの辞典 (『大辞林』『学研国語大辞典 (第2版)』『新明解国語辞典 (第4版)』『三省堂国語辞典 (第4版)』『岩波国語辞典 (第4版)』『例解国語辞典 (第3版)』) 全てがサ変動詞として扱っているもの
b. 相澤 (1993) が動名詞に軽動詞「する」が接続した場合にヲ格を取ると認めたもの

(13) a,b に該当する動名詞は、588 項目あった。そのうち、同形の動名詞であっても『分類語彙表』(1964) の類別が複数の類別にまたがっていることから、複数の項目になっているものが多くあったが、同形は全て 1 項目とまとめた結果、535 語の動名詞を得ることができた。その内訳は、以下のとおりである。

表 1. 動名詞の項目数

他動詞のみの動名詞	472
自他同形の動名詞	63
合計	535

自他同形の動名詞とは、「拡張する」のように、自動詞としても他動詞としても働く形式である。

- (14) 領土が拡張する
- (15) 領土を拡張する

上の動名詞のうち、軽動詞「する」と複合動詞を作った際、他動詞のみの形になるもの472項目を対象に調査を行うこととした。

この472項目について、2010年3月13日より同年6月27日にかけて、Googleにより「をVNだ」「をVNか」「をVN中」の形式を検索し、検索後の初めの2ページにそれぞれの形式が出現するかどうかを調べた。ただし、「を」格の項がVNの対象項だとは認められない、(16)のような用例は排除した。

- (16) 数学を暗記だというなら大学も似たようなものだよ。
(kotonoha.cc/no/194671、2010年3月13日)

(17)にあるような「をVNか」も検索したのは、(17)のような「をVNか」の構文においては、終助詞「か」の前において、コンピュータが省略されているか、あるいは、ゼロのコンピュータが出現していると想定したからである。

- (17) フィギュア女王のキム・ヨナ選手が引退を決意か
(media.yucasee.jp/posts/index/3021、2010年6月11日)

このことは、通常の名詞述語文である(18a)が、「か」が後続する疑問文(18b)において、「だ」が省略されることから予想される。

- (18) a. 彼は病気だ。
b. 彼は病気か。

4. 結果と考察

以上の調査の結果、「をVNだ」「をVNか」「をVN中」の出現数は表2のようになった。すなわち、472項目の動名詞のうち、125項目が「をVNだ」構文として現れ、190項目が「をVNか」構文として現れ、263項目が「をVN中」構文として現れた。

表2. 「をVNだ」「をVNか」「をVN中」の出現頻度

構文タイプ	をVNだ	をVNか	をVN中
頻度(項目)	125	190	263
%	36.4%	40.3%	55.7%

実に全体472項目のうち、4分の1以上である26.5%が「をVNだ」の構文で現れたことから、この構文がそれほど希少な構文であるというわけではないことがわかる。

表3に示したように、「をVNだ」か「をVNか」(あるいは、その両方)の構文において出現した項目は、236にのぼり、その割合は472項目の50%であり、「をVN中」構文の頻度に近いものとなることから、動名詞にコンピュータが接続する構文も同じような扱いを受けてよい構文であり、コンピュータ「だ」の軽動詞としての機能も同様に決して珍しいものではないことを認めることができる。

表3. 「をVNだ」／「をVNか」の出現数

構文タイプ	をVNだ& をVNか	「をVNだ」 のみ	「をVNか」 のみ	合計
頻度	79	46	111	236

表4は、どのぐらいの動名詞がそれぞれの文型において重なって出現するかを示したものである。

表4. 「をVNだ」「をVNか」「をVN中」における重なり

構文タイプ	をVN中 をVNだ をVNか	をVN中 をVNだ	をVN中 をVNか	をVNだ をVNか	をVN中	をVNだ	をVNか	合計
頻度	60	39	65	19	99	7	46	335

この表から窺えることは、「をVNだ」の文型のみ出現する動名詞の頻度数が低く、この文型に出現する動名詞は、他の文型にも出現しやすいことを示している。すなわち、「をVNだ」構文に出現する動名詞は、他構文と比べて特殊なものではないことを示している。

どのようなタイプの動名詞が「をVNだ」の構文に出現するか調べたところ、「をVNだ」の構文に出現する動名詞は、境界(telic)動名詞が多かった。境界動名詞とは「1時間以内に」「一週間以内に」等の時間的なフレームを持つ副詞句と生起する動名詞である。すなわち、達成動名詞・到達動名詞である場合が多かったのではあるが、その他のタイプ

の動名詞である場合もあった。今回の調査においては、境界動名詞か、非境界（atelic）動名詞であるか、非動作主（non-agentive）動名詞であるかの 3 点に注目した。非境界動名詞とは「1 時間の間」「一週間の間」等の時間的なフレームを持つ副詞句と生起する動名詞である。

以下それぞれの例を示す。

■境界（telic）動名詞

- (19) 当て逃げで超エリート巡査長を逮捕だよ～
(www.unkar.org/read/news23.2ch.net/news/1187658324、2010 年 5 月 4 日)
- (20) 血液型で自分を分析だ！！
(blog.livedoor.jp/aope/archives/50501913.html、2010 年 3 月 16 日)
- (21) 今度は「日本ハムケータイ」を発売だそうです。
(logs.dreamhosters.com/html/1/221/241/1221241929.html、2010 年 5 月 7 日)

■非境界（atelic）動名詞

- (22) 紀宮さまもクラッシュジョウを愛読だそうです
(sho.tdiary.net/20041124.html、2010 年 3 月 17 日)
- (23) 今年の夏は北海道をドライブだ!!
(www.digicafe.jp/diary/1546336、2010 年 3 月 23 日)
- (24) 英語より浪花語を勉強だ！
(miyage.beenavi.com/archives/50299744.html、2010 年 3 月 14 日)

■非動作主動名詞

- (25) まずはとっつきやすそうなこのお城タイプを鑑賞だ。
(portal.nifty.com/special05/10/21/2.htm、2010 年 5 月 27 日)
- (26) 足湯で手軽にデトックス効果を実感だ
(yakudati1.bake-neko.net、2010 年 4 月 16 日)
- (27) 柴田倫世さん第 3 子を妊娠だそうですよ
(joshiana.seesaa.net/article/132295900.html、2010 年 6 月 16 日)

以上、この節においては、「を VN だ」構文は、472 項目の 4 分の 1 以上出現し、「を VN か」構文への出現を合わせると出現率は 50%となり、決して希少な構文ではないことを示した。また、この構文に現れる動名詞としては、境界動名詞のみならず、非境界動名詞および非動作主動名詞なども現れることが可能であることを示した。

5. 終わりに

本論文においては、コピュラ「だ」が、「する」のような軽動詞と同じように機能し、動名詞の項を動詞格として出現させる例をインターネットの Google により検索し、それがどのぐ

らの頻度で出現するかを検証した。他動詞の「VN する」を派生させる動名詞を 472 項目選
び出し、それぞれについて 2010 年 3 月 13 日より同年 6 月 27 日まで、Google により「を VN
だ」「を VN か」「を VN 中」の形式を検索したところ、先行研究で広く認められていると
ころの「を VN 中」は過半数の場合 (55.7%) 出現し、「を VN だ」に関しては 4 分の 1 を超え
る割合 (26.5%) で出現することがわかった。また、「だ」が終助詞「か」により省略されて
いるとみなされる「を VN か」の構文は 4 割 (40.3%) ほど出現し、「を VN だ」構文あるい
は「を VN か」構文に出現する動名詞に、両構文に出現する動名詞を加えた割合は、50% に
のぼることが検証された。さらに、「を VN だ」の構文に出現する動名詞のタイプは様々であ
り、境界動名詞、非境界動名詞、非動作主動名詞のいずれもこの構文に出現することがわか
った。以上から、「を VN だ」の構文は決して稀な構文とは言えないということが認められた。

注

1. 以下、例文において問題となっている動名詞には、下線を引く。
2. しかし、この文法的なカテゴリーについては様々な主張がされており、その類別につ
いては Sato 2008 参照。
3. TOP: topic marker (主題マーカー), COP: copula (コピュラ), NOM: nominative (主格),
ACC: accusative (対格)

参考文献

- Grimshaw, Jane, and Armin Mester. (1988) 'Light verbs and θ -marking,' *Linguistic inquiry*, 19, 2:
205-232
- Grimshaw, Jane. (1991) *Argument Structure*. Cambridge, Massachusetts: the MIT Press.
- Iwasaki, Yasufumi. (1999) Three Subcategories of Nouns in Japanese. Ph.D. dissertation,
University of Illinois at Urbana-Champaign.
- Martin, Samuel E. (1975) *Reference grammar of Japanese*. New Haven: Yale University
Press.
- Matsumoto, Yo. (1996) *Complex Predicates in Japanese: A Syntactic and Semantic Study of the
Notion 'Word.'* Stanford, California: CSLI (the Center for the Study of Language and
Information).
- Sato, Yutaka. (2008) 'A phonologically null copula functioning as a light verb in Japanese.' In
Mutsuko Endo Hudson, Sun-Ah Jun, Peter Sells, Patricia M. Clancy, Shoichi Iwasaki, and
Sung-Ock Sohn, eds., *Japanese Korean Linguistics*, Volume 13, pp. 207-217. Stanford,
California: CSLI.
- Sells, Peter. (1996) 'Case, categories and projection.' In Hee-Don Ahn, Myung-Yoon Kang,
Yong-Suck Kim, and Sookhee Lee, eds., *Morphosyntax in Generative Grammar;
Proceedings of 1996 Seoul International Conference on Generative Grammar*, pp. 47-62.
Seoul: Hankwuk Publishing Co.
- Shibatani, Masayoshi, and Taro Kageyama. (1988) 'Word formation in a modular theory of
grammar: postsyntactic compounds in Japanese,' *Language*, 63, 3: 451-484.

- 相澤正夫（1993）「日本語教育のための基本語彙調査と複合サ変動詞」『国立国語研究所報告 105 研究報告集 14』 pp.281-332、国立国語研究所
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房
- 工藤真由美（2002）「現象と本質—方言の文法と標準の文法—」『日本語文法』2 巻 2 号、pp. 46-61.
- 杉岡洋子（2009）「『—中』の多義性—時間を表す接辞をめぐる考察—」由本陽子・岸本秀樹編『語彙の意味と文法』pp. 85-104、くろしお出版
- 国立国語研究所（1964）『分類語彙表』（国立国語研究所資料6）秀英出版
- 国立国語研究所（1984）『日本語教育のための基本語彙調査』（国立国語研究所報告 78）秀英出版

The actual frequency of the *o*-VN-*da* construction

Yutaka Sato

This paper shows how frequently the Japanese copula functions as a light verb and forms a complex predicate with a verbal noun in the actually occurring data on the internet. Such a construction with a verbal noun with a copula was sporadically referred to in the literature. This construction, however, has not been fully discussed as a construction with a verbal noun forming a complex predicate with a light verb, in comparison to a construction with a verbal noun followed by the aspectual suffix *-tyuu* ‘during.’ Google search was made from March 13 to June 27, 2010, to find out how many of 472 verbal nouns occur in the *o*-VN-*da* construction, that is, the construction with a verbal noun preceded by its theme argument in the accusative and followed by the copula *da*. 125 verbal nouns were confirmed as occurring in the *o*-VN-*da* construction, or 26.5% of the 472 occurred in the construction in question. And 236 verbal nouns (50% of the 472) occurred in either the *o*-VN-*da* construction or the *o*-VN-*ka* (where there is a zero copula), or both those constructions. This shows that the *o*-VN-*da/ka* is not a rare construction in Japanese. It was also confirmed that the type of verbal nouns that occur in this construction is not limited to the telic type, but atelic and non-agentive verbal nouns also appear in the construction in question.